

第4回定例会の日程決まる！

10月21日に議会運営委員会が開かれ、11月末に開会となる第4回定例会の日程が決まりました。

2020年度予算編成過程で、新年度予算案にさまざまな意見を反映させる大切な議会となります。みなさまの切実な願い・声をお寄せください。請願・陳情は、議会へ市民の声を直接届ける大切な手法です。大いに活用しましょう。

【日程】

- 11月28日（木） 開会（議案説明）
12月2日（月） 一般質問（午前）令和自民・落水、（午後）自民党・荒川
3日（火） 一般質問（午前）市民連合・吉村、（午後）公明党・藤永
4日（水） 一般質問（午前）無所属・緒方、（午後）無所属・北川
5日（木） 一般質問（午前）令和自民・田中敦、（午後）自民党・山本
6日（金） 一般質問（午前）市民連合・村上、（午後）公明党・園川
9日（月） 予算決算委員会分科会・部門別常任委員会
13日（金） 予算決算委員会しめくくり質疑
18日（水） 最終日（質疑・討論・表決）

★請願締め切り:11月28日(木)午後5時

★陳情締め切り:12月4日(水)午後5時

*今回は、日本共産党市議団の一般質問はありません。

予算決算委員会分科会・部門別常任委員会、ならびに予算決算委員会しめくくり質疑、最終日の質疑・討論で意見を述べます。

*議会開催中の特別委員会は、決まり次第追ってお知らせします。

日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか

NO. 1162

2019年11月3日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP: 共産党 熊本市議団



検索



庁舎建替え問題特別委員会の傍聴を！

6月26日から10月10日まで、5回の委員会が開かれてきました。

（第1回）庁舎整備に関する委託報告書の説明

（第2回）斎藤幸雄参考人の意見聴取

（第3回）高橋治参考人の意見聴取

（第4回）参考人2人の意見を踏まえた議員の意見交換・財政面での検証

（第5回）参考人2人の意見を踏まえた「市の考え方」

次回の第6回委員会では、これまでの議論を踏まえて検証が行われます。

議会の意見を聞かず、「建替え」に固執する市の姿勢が問われています。

次回委員会は、

11月15日(金)午後1時より

市役所議会棟5階特別委員会室

***傍聴は、モニターとなります。**

場所：議会棟5階ロビー西側

どなたでも傍聴できます。お問い合わせでどうぞ。



【控え室から】 子ども会やPTAの役割

なすまどか



先日地元紙に、「熊本市で進む子ども会離れ 育成協議会の加入率3割台」との見出しで、子ども会の現状を報じる記事が掲載されました。「親と子が忙しく、子ども会活動に手が回らない」と子ども会離れの背景についても報じられていました。

私自身も小学校のPTA役員をしていますが、共働きの増加、さらには子どもたちの習い事や部活の送り迎えなど、年々、親の多忙化は進んでいると感じます。PTA活動に対する負担軽減を求める声も多く、未加入世帯も増えている状況です。

子ども会もPTAも任意加入の組織ですので、加入・非加入は自由です。「忙しいから入らない」というケースもあるでしょう。ただ、子どもを取り巻く様々な課題に直面した時、単独の世帯では解決できない問題を、親の連帯があることによって前向きに解決できるケースも多々あります。

こうあるべきという固定概念にとらわれず、忙しい方は忙しいなりに、経済的な負担が難しい世帯はその世帯なりに、子ども会やPTA活動に参加できるように、組織のあり方を見直していくことも必要です。子どもたちのために力を合わせる楽しさを多くの親と共感できるように頑張ります。

厚生委員会 視察報告 ～ なすまどか

10月15日～17日、市議会厚生委員会で、愛知県名古屋・豊田市、三重県津市の行政視察が行われました。

名古屋市 健康ポイント事業

ウォーキングや健康診断でポイント付与 様々な特典

名古屋市では、市民の健康増進を目的に、健康ポイント事業を実施しています。この事業は、スマートフォンや活動量計（万歩計にデータを送信する機能がついているもの：市が配布）を活用し、ウォーキングや健康診断の受診状況に応じてポイントが付与されます。獲得したポイントをもとに、生活家電やギフトカードなど特典を得られる仕組みです。

「歩く機会が増えた」「日常の運動習慣が改善した」など効果

事業の前後で日々の歩数に変化はありましたか

単位（人）	活動量計		スマホ		全体	
変化はない 減った	80	20.9%	75	30.7%	155	24.8%
1000歩程度 増えた	64	16.8%	54	22.1%	118	18.8%
2000～3000歩 程度増えた	150	39.3%	73	29.9%	223	35.6%
4000～5000歩 程度増えた	56	14.7%	22	9.0%	78	12.5%
6000歩以上 増えた	25	6.5%	20	8.2%	45	7.2%
無回答	7	1.8%	0	0.0%	7	1.1%
合計	382	100.0%	244	100.0%	626	100.0%

参加が限定的、成果がわかりにくいなど課題も

参加者が全体で2000名と限定されていること、また取り組みによって健康増進が実際に図られたのか検証が難しいなど、課題も出されました。

豊田市 訪問看護師育成事業

豊田市では、在宅医療を支える訪問看護師を育成するセンターを公設民営で創設。市内の病院や訪問看護ステーションに勤務・就職予定の看護師らが、2年間のカリキュラムで、訪問看護師として働けるよう取り組みを進めています。

訪問看護師は全体の3% 在宅医療の担い手が必要

研修センター設立のきっかけは、「自宅で医療を受けたい」とのニーズが増える中で、在宅医療を担う看護師が不足しているとの医師会からの指摘を受け、市が独自の育成プログラムを作成。財政的な支援も行い、受講生は無料で訪問看護師としてのスキルを学ぶことができ、毎年24名の訪問看護師を育成することを目的としています。

これまでは、現場で経験を積んだベテラン看護師が訪問看護を担うという考え方が根付いていましたが、同施設は新任看護師も含め育成を行うものです。

また、患者一人の思いに寄り添い看護を行う訪問看護の大切さや意義を市内に広げることで、訪問看護の位置づけを高めることも重視しています。



高齢化が進む中で、在宅で医療を受けたいなど様々なニーズが生まれ、訪問看護師の育成は非常に大事な取り組みだと感じました。一方で、国は医療費の削減を目的に、病院の病床数を大幅に減らそうとしています。医療にかかる予算を増やし、在宅医療の担い手育成とともに、だれもが安心して医療を受けることができる基盤整備が必要だと感じました。（なすまどか）